

# 市場から世界をみれば

ISG 情報システム株式会社 大谷淳一



## 第9回「シード・ハンター」上

聞き慣れない言葉であるが、シード・ハンターとは、種子採集人ともいべき存在で、海外に多く存在している。

かつてイギリスでは、

海外探検に乗り出す際に必ず博物学者を同行させたという。彼らは行き着いた先でさまざまな動物を採集し、自国へ持ち帰った。彼らがシード・

ハンターの先駆的存在である。アジア奥地などで採集した植物の種子は、現在の園芸植物の基礎ともなっているという。

過去から近代社会に至るまで、多くの生物学者・博物学者が種子や生物の採集に取り組んだ。彼らの功績は、世界を股に掛けた収集家であり、近代

の情報のグローバル化の基礎を築いた人々であるという点であろう。

ビッグル号で世界を航海したチャールズ・ダーウィンもその1人だ。ダ

益軒、近代では南方熊楠が有名だ。熊楠は186

1ウインは、18097年、紀伊国（和歌山県）

年にイングランドに生まれて生まれた。東京に住んだ後、アメリカに行き、自然科学者である。その後、イギリスに渡り、大英博物館に入る。大英博物館では、東洋書物の編さんを行い、後に日本

セスをへて進化したことに戻り、和歌山県田辺市「類の生物」の遺伝子情報を明らかにした。いわゆりに住んだ。植物全般、粘を収集し始めた。遺伝子「進化論」である。彼菌、キノコ藻類などを幅を資源と考え、他国に先は大学卒業後にイギリスの論文を著した。博物を重ねているのだ。農作海軍の測量船ビッグル号の論文を著した。博物を重ねているのだ。農作に乗り、世界を巡る。こ学や民俗学の大家でもあ物の種子などの遺伝資源の体験で多くの示唆を得たが、生涯を在野の研を収集・保存する施設は、進化論についての究者として過ごした。世界各国が設けている。

た。彼はビッグル号の航海で、多くの標本を採取した。それらの標本がイギリスの博物学に多大なる貢献をし、発展させたこ学研究のために行動した市にあり、名称は「農業

と誰かが認めるところだ。彼らとは異なり、現代の生物資源研究所である。シード・ハンターたちの種子採集の目的は、食糧確保のためなのである。ング2011年3月8日

今、世界の国々は、「世界第3章作物原種を刈り集界に存在するあらゆる種める人々

### 【略歴】

1957年北海道美唄市生まれ。85年、食料管理、生鮮管理のシステムを開発する情報システムを創業。荷受卸売業者や食品製造会社、仲卸売業者向けのコンサル